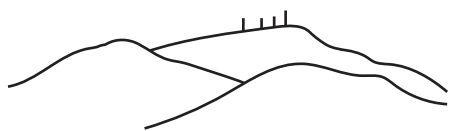


# Youth Manna

2021/2/1 - 2/7



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/2/1(月)

## 1 テサロニケ 3 章

パウロはテサロニケの信じた人たちが、イエスを信じたことによって苦難の中にあることを知っていました。

※使徒 17 章を読んで以下のことを調べてみよう！  
(パウロの滞在期間 / 信じた人たちの特徴 / 迫害)

すぐに電話やメールができる現代とは違って、遠くにいる信じたばかりの人たちを心配するパウロの気持ちがどうだったか想像してみよう。彼らを強め励ますためにテモテが遣わされましたが、彼らの信仰と愛についての良い報告を聞いてパウロは慰めと励ましを受け、神様に感謝します。

僕らにも、自分の信仰のために祈り支えてくれている人たちがいて、そして僕らが祈っている仲間がいるね。信仰の仲間がいることを感謝し、彼らのために祈ろう！愛を实践しよう！

2021/2/2(火)

## 1 テサロニケ 4 章

手紙の最後にパウロが勧めたことは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかということでした。「神様に喜ばれるため」という基準や考え方は僕らにとっても、とても大事なことだね！

①聖なる者となること (3-8)  
性的な罪や汚れを避け、からだも心も純潔を保つことが勧められているね。

②互いに愛し合うことと、自分の仕事をする事 (9-12)  
みんなの場合は「仕事」は何か？外でも良い証となる生活をしよう！

③キリストの再臨について、正しく理解し、希望を持ち、互いに励まし合うこと (13-18)

私たちも神様に喜ばれるように歩もう！いつも心を神様に向けよう (^ ^) !

2021/2/3(水)

## 1 テサロニケ 5:1-11

キリストの再臨は「盗人がやってくるように」、予期しない時に来る。突然のようにして破滅が襲い、人々は避けることはできない (1-3)。また、「主の日」には最終的なさばきがあり、救いと滅びに分けられる。しかしキリスト者には破滅が襲うことはなく、「主の日」は救いの日として来る。罪から救われ、光の子どもとされた者は、暗闇が覆っている世にあっても光として生きることができる。それは、信仰、愛、救いの望みを身につけて生活し、主がいつ来られても良いように備えていることである (8)。

祈り：主が来られる日まで、信仰、愛、望みを身につけ、その日に備える歩みをさせてください。

2021/2/4(木)

## 1 テサロニケ 5:12-28

今日は 12-22 を特に注目して見てみよう！

使徒パウロはテサロニケの信徒たちに教会の指導者に対して大いに敬意を払うように勧めた。(12.13v)

また、16.17.18v では、喜び、祈り、感謝することが必要だと述べている。これらを私たちは自分の状態によって辞めてしまうことがある。しかし、どのような時も喜び、祈り、感謝することを覚えていよう！

今日の箇所から、

- ①主に立てられた方に敬意をはらう。
- ②喜び、祈り、感謝を忘れない。このことを覚えて生活しよう！！

双子の日

2021/2/5(金)

## 民数記 15:1-21

▶主のことばを信じなかったので、荒野での 40 年もの長い旅が始まった。しかし主は 40 年をさばきの期間としなかった。主は民を愛し、見守り、生かした。しばらく民数記が続くけど、主の愛を御言葉から聴こう！

▶15 章では「約束の地に入ったとき」のささげ物に関するルールが書かれている。つまり 40 年後の話だ。20 歳未満の子どもたちにとって、先が見えない不安の中で、将来の約束は希望となったはずだ。

▶18-21 節は、約束の地でパンが食べられるようになった時の話だ。食べるものがなく、荒野で恵みとして与えられていたマナは止まり、約束の地で収穫をして感謝をもってささげ物ができるようになることがわかる。

▶私に与えられている約束は何だろう？

2021/2/6(土)

## 民数記 15:22-41

今日は人々が約束の地で神様の命令を守らなかった時のことについてかいてあるね。

その結果については、わざとかわざとでないかによって違いがあった。神様は私たちの心を見てくださるお方だね。

今、私たちはわざとでも、そうでなくても心から悔い改める時、イエス様の十字架によってどんな罪でも赦されることが与えられている。

その悔い改めを神様は待っていてくださるんだ。その愛に応答していこう！今日思わされた自分の罪を悔い改め、神様の赦しを受け取ろう！

2021/2/7(日)

## 民数記 16:1-22

反逆したコラたちは、モーセとアロンを、民を導く指導者として立てたのが誰であるのかということに目を留めませんでした。

モーセは、不満を訴えるコラたちの話を聞き、コラたちが単に自分たちに逆らっているのではなく、神様に逆らっているのだと伝えます。さらに、話を聞こうともせず、神様への反逆を話すダタンとアビラムに対し、モーセは激しく怒りました。

私たちにも神様が立ててくださっている権威があります。お父さんお母さんや牧師先生、学校の先生や様々なリーダーたち。

もちろん権威に立つ人も完全ではないので、不満をもつこともあると思います。しかし、その不満が、権威を定めた神様に対する不満になっていることはないでしょうか。権威に対する態度は神様への態度として現れます。自分の態度はどうでしょうか。静まって心を神様に向け、神様に聞いてみよう。